

添付資料：HP 掲載文書

お知らせ

〈2004年1月から2008年12月までに川崎医科大学附属病院において

大腸癌肺転移に対して手術を受けられた患者さんとそのご家族へ〉

研究課題名：Oxaliplatin が本邦に導入された後の大腸癌肺転移症例に対する

肺転移切除の意義を検討する多施設共同後ろ向き臨床研究

近年の大腸癌に対する抗癌剤治療は目覚ましい進歩を遂げており、その治療効果は著しく向上しています。それに伴い、大腸癌肺転移に対する手術の成績も、術前や術後に抗癌剤治療を行うことにより従来と比べて改善している可能性があります。しかし、大腸癌肺転移の治療には消化器内科・消化器外科・呼吸器外科など複数の診療科が携わることも影響して、近年の治療成績についての詳細な検討は十分に行われていません。

私たちは、日本全国で呼吸器外科の手術を行っている主要な施設と共同で、大腸癌肺転移の手術成績や予後の解明を行う研究を始めました。2004年1月から2008年12月までに川崎医科大学附属病院で大腸癌肺転移の手術を受けられた患者さんのデータ（手術時の年齢、性別、大腸癌原発巣に対する治療（手術、抗癌剤治療）の詳細、肺転移および肺転移手術に関する詳細、肺転移切除後の再発の有無や予後など）を集め、研究データセンター（特定非営利活動法人つくばがん臨床試験グループ TEL 029-853-3109）に送付します。そのデータは、他の施設のデータとあわせて解析が行われ、現在の大腸癌肺転移手術の治療成績を把握し、その治療方針の最適化を目指し、さらにはよりよい治療方法を開発するための研究を行う際の元データとなります。日本全国の40～50施設から1000例以上の患者さんのデータを集める予定です。患者さんのお名前や住所などの個人情報を送付することはありません。

この研究への参加を希望されない方、データの送付を希望されない方は、川崎医科大学附属病院呼吸器外科ホームページ（<http://www.kawasaki-m.ac.jp/gts/>）から電子メール（gts@med.kawasaki-m.ac.jp）、または川崎医科大学呼吸器外科学教室（直通 086-462-1124）または下記研究者に連絡をお願いします。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では研究資金は発生しないため、このような利益相反の状態にはなりません。

なお、この研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の審査・承認を得ていることを申し添えます。

問い合わせ先：川崎医科大学附属病院呼吸器外科 中田 昌男

電子メール：gts@med.kawasaki-m.ac.jp

TEL：川崎医科大学病院代表(086-462-1111) 呼吸器外科学実験室(内線 25519)

FAX：086-464-1124